

## 連続セミナー第一回 身近な生活と交通

共催：日本福祉のまちづくり学会事業委員会・北海道支部  
北星学園大学経済学部・中央大学研究開発機構  
交通エコロジー・モビリティ財団

我が国では人口減少、高齢化、少子化が大きな問題になり始めつつあります。その中で地方創生が叫ばれる中、北海道の中小都市は、空港の民営化、鉄道の廃線、バスの撤退や減便などの影響をまともに受け、地域住民の生活を支える交通が徐々に奪われています。生活の三要素は衣食住から医職(医療・職業)住+交通に変化してきています。それは医者に行くにも交通が不可欠で、職業を得て通うのも交通がかかわります。そして買い物に行くことも交通は必要です。以上のことを踏まえて北海道の交通を議論するために連続セミナーを下記の要領で開催いたします。

### 記

日時：2018年7月10日(火)午後1：30～4：30

場所：北星学園大学C館1階 講堂 (50周年記念ホール)

内容：

1：30 挨拶：鈴木克典(日本福祉のまちづくり学会北海道支部長・北星学園大学経済学部教授)

0. 北海道の地域の生活交通 コーディネーター 鈴木克典

第一部 モビリティの必要性と北海道の生活交通 コーディネーター 鈴木克典教授

1. なぜ、生活交通が必要なのか? 中央大学研究開発機構教授 秋山哲男(1：35～2：05)

2. 北海道の生活交通の実態 北海道運輸局 発表者未定(2：05～2：35)

3. 質疑 (2：35～2：50)

休憩 15分

第二部 北海道のモビリティと公共交通の事例 コーディネーター 秋山哲男教授

4. 中頓別のライドシェアの実験 切通堅太郎(HIT北海道総合研究調査会)(3：05～3：25)

5. ニセコの交通 竹内龍介 国土交通政策研究所(3：25～3：45)

6. 北海道における生活交通実態-栗山町における事例- 鈴木克典教授(3：45～4：05)

7. 質疑 (4：05～4：30)

閉会の挨拶 日本福祉のまちづくり学会事業委員長 秋山哲男 (4：30～4：35)

参加費・資料：1000円(セミナー当日お持ちください)

申し込み：日本福祉のまちづくり学会

【事務局】(一社)日本福祉のまちづくり学会 事務局

7月5日までに(一社)日本福祉のまちづくり学会

事務局(小林)へ イーメール

kobayashi@fukumachi.net (「7/10連続セミナー北海道を

表題にして氏名、所属先、メールアドレス等の連絡先、

必要な配慮をお知らせください)

★ 2018年10月・第2回(鉄道)、2019年1月・第3回(空港)、4月以降・第4回(バス)を予定。

### 会場案内図

